

## マレーシアスランゴール州・マレーシア工科大学とともに、シンポジウム「Localizing DRR Actions」を開催しました（2023/10/19-20）

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード

場所：マレーシアスランゴール州シャーアラム

10月19～20日に、当研究所はマレーシアスランゴール州防災課・マレーシア工科大学と連携し、「Localizing DRR Actions: Public, Private, Academic and Community Collaboration」と題したシンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、2018年に泉貴子教授（国際防災戦略研究分野）が JICA 草の根技術協力事業として採択された「Strengthening Disaster Risk Reduction Capacity to Improve the Safety and Security of Communities by Understanding Disaster Risks (SeDAR)」プロジェクトの最終報告を目的としたイベントです。このシンポジウムは、スランゴール州防災課が主催し、市民防衛局が共催、国家災害管理庁とマレーシア工科大学が後援しました。

このイベントには、これまでの約5年間で当プロジェクトに協力いただいた様々なマレーシア政府機関やプロジェクト対象地域のコミュニティリーダー、スランゴール州以外のペナン州・クランタン州・サラワク州からの防災課の職員も参加し、合計で100名以上が参加しました。

シンポジウムでは、4つのセッション：1. Community leadership, 2. DRR initiatives and its future in Malaysia, 3. Science and Technology in DRR, and 4. Policy recommendations and project handover において、政府機関・コミュニティリーダー、学術機関からの代表が発表・パネルディスカッションを行いました。最初のセッションで、4つのプロジェクト対象コミュニティのリーダーたちが、このプロジェクトを通して行った防災活動やプロジェクト開始前後の変化、今後どのように防災活動を継続していくかなどについて発表しました。どの対象地域も、防災について知識が向上しコミュニティ内で共有できたことを、成果の一つとして挙げていました。

泉教授はイベントの最後に、この5年間を通して、今後どのようにマレーシアで防災活動を推進していくかについて、Policy recommendations を発表しました。最後にスランゴール州政府副知事から東北大学災害科学国際研究所をはじめとするプロジェクトチームへ謝辞が述べられ、今後、防災活動を継続していくことが重要であること、スランゴール州が防災活動を支援していくことの決意表明がなされました。その後、州政府の来年度予算に関する会議の中で、州知事が同様の防災プロジェクトをその他の District で実施するために、防災予算を確保したことを正式に発表しました。

このプロジェクトは2024年3月までとなっており、現在もまだ4つの対象地域でコミュニティ主体の防災活動が続いています。その中には、早期警報システムの改善やリソースセンターの設置なども含まれ、住民がアイデアをだしてリーダーシップをとりながら実施しています。



SeDAR  
 Malaysia  
 -Japan

## POLICY BRIEF

### Localizing DRR Actions: Public, Private, Academic, and Community Collaboration

Takako Irumi, Professor, IRIDeS, Tohoku University  
 Enko Makiyama, Senior Program Coordinator, SeDAR, JICA Partnership Program

**KEY MESSAGE**

The frequency and intensity of environmental hazards, such as floods and landslides, have been increasing both in Malaysia and globally due to climate change and developmental activities. Although the vulnerability to and impacts of hazards have also increased, the damage they cause can be mitigated by building disaster risk reduction (DRR) capacity at the local level.

**BACKGROUND**

Understanding Disaster Risk (SeDAR) was initiated in 2018 in cooperation with the Selangor State Government, Tohoku University, Universiti Teknologi Malaysia, and Malaysia Civil Defence Force (AFM), with funding support from the Japan International Cooperation Agency (JICA). This project aimed to equip local governments, community leaders, and community members with the skills and know-how to build a DRR program at the grassroots level using a bottom-up strategy. SeDAR also emphasized the need to utilize science and technology to identify risks and prepare for and respond to future disasters.

In this context, a project titled "Strengthening Disaster Risk Reduction Capacity to Improve the Safety and Security of Communities by

